

部 門	都市公園事業		
名 称	札幌芸術の森公園	所 在 地	北海道札幌市
事 業 者	札幌市	規 模	約 39ha

事業概要	魅力的な公園区域内の景観形成：彫刻と自然との調和
事業手法	都市公園事業（風致公園）
事業期間	昭和 56 年度 ～ 平成 11 年度
規制・誘導方法	—
配慮・工夫事項	<ul style="list-style-type: none"> ・芸術の森は、中心部の大通公園の緑化空間から、支笏・洞爺国立公園の自然林へと至る中間に位置し、この土地の特性を強調し、入口付近の低地部は平地の植生のモチーフ、園内高地部は山林のモチーフとし、植生の対比による造園を基本 ・雄大かつ、四季により美しく変化する自然環境と共生する、札幌を象徴する総合芸術の創造・発信の場として、札幌ならではの芸術環境を創出



芸術の森野外美術館



芸術の森野外ステージ



芸術の森美術館



隠された庭への道／ダニ・カラヴァン作（緑濃い森を背景に展示することにより、白い彫刻をより引き立てる効果や四角いステンレスの彫刻を目線に配置することにより、額縁効果によって空の青さとのコントラストを強調させ、魅力的な景観を演出）

札幌芸術の森は、昭和 52 年、札幌青年会議所が提唱した「さっぽろアートパーク構想」がその源となり、構想の実現を目指した懇話会等の開催を経て、昭和 56 年、札幌市にプロジェクトチームを設け、具体的な検討と計画の策定に着手した。

昭和 59 年から平成 11 年までの 3 期に分け事業化し、昭和 61 年 7 月、オープンを迎えた。

平成 11 年のダニ・カラヴァン作「隠された庭への道」の完成により、事業が完了したが、平成 16 年には仮設としていた野外ステージがリニューアルし、本格的な施設となった。

札幌芸術の森は、札幌の芸術文化の象徴として、総合芸術の創造・発信の拠点となっている。

プロのアーティストから、市民の体験講習まで幅広く利用され、野外美術館、屋内美術館、クラフト工房、工芸館、陶工房、登り窯等、ガラス工房、木工房、版画工房、アートホール、野外ステージ、各種アトリエを備え、世界 3 大教育プログラムのひとつと言われる、パシフィック・ミュージック・フェスティバルの主会場としても活躍している。

事業段階区分			立地区分				
構想・計画	設計・施工	維持管理	都心部	市街地 (商業・業務)	市街地 (住居系)	郊外	その他

部 門	都市公園事業		
名 称	宮部記念緑地	所 在 地	北海道札幌市
事 業 者	札幌市	規 模	0.1ha

事業概要	都市全体の景観向上:市街地とのつながりに配慮した景観形成
事業手法	都市公園事業(都市緑地)
事業期間	平成2年度 ~ 平成4年度
規制・誘導方法	—
配慮・工夫事項	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道大学農学部附属植物園の初代園長である故宮部金吾博士の住居跡を、博士の功績を称え同時に市民の憩いの場としての公園に整備 ・博士が植えた樹木を大事に扱い、現在の町並みと調和するよう工夫



(写真1)



(写真2)

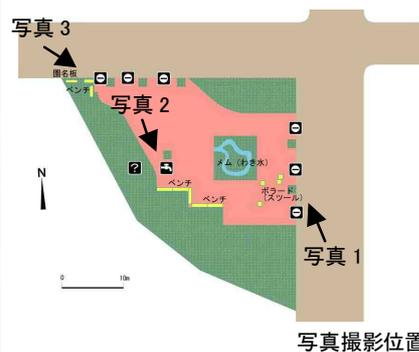
【表彰等】

- ・第8回都市公園コンクール 建設省都市局長賞受賞 (施工部門) (平成4年)
- ・第6回札幌市都市景観賞受賞(平成5年)



(写真3)

舗装のグリッドは札幌の街区パターンをモチーフとし景観的にも市街地との連続性を形成



写真撮影位置



位置図

宮部記念緑地は、様々な功績を残した植物学者・宮部金吾(みやべ きんご)博士を記念し、博士が晩年住んでいた住居跡地を札幌市が取得し造成された緑地で、平成4年3月31日に開園した。博士が活躍した大正時代の緑や水の流れを再現したものや、大正時代の札幌の街並みを石畳で再現したメモリアル広場などが設置されている。また、大木となった樹木を残しつつ、歩道部との境界をなくし機能的に市街地との一体化や市街地との連続性を図っている。

事業段階区分			立地区分				
構想・計画	設計・施工	維持管理	都心部	市街地 (商業・業務)	市街地 (住居系)	郊外	その他

部 門	都市公園事業		
名 称	国営みちのく杜の湖畔公園 「ふるさと村」	所 在 地	宮城県川崎町
事 業 者	国土交通省東北地方整備局	規 模	約 6.4ha

事業概要	魅力的な公園区域内の景観形成：東北地方の農村風景を再現
事業手法	都市公園事業(国営公園)
事業期間	昭和 62 年度 ～ 平成 16 年度
規制・誘導方法	—
配慮・工夫事項	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの専門家とのコラボレーションによってプロジェクトを進め、東北 6 県の古民家を忠実に移築・復元 ・花や農作物により季節感を出すとともに、東北各地のお祭りや風習をイベントとして実施 ・ボランティアによる民話語りなど、様々な人との交流が実現



秋の稲刈り体験



復元古民家内でのボランティアによる民話語り



釜房の家(宮城県)

国営みちのく杜の湖畔公園の「ふるさと村」は、みちのく公園の中心となる「文化と水のゾーン(約 90ha)」内に位置している。ふるさと村は、東北地方の文化を再発見する空間であり、「農村風景」をテーマに、古民家がある東北地方のふるさと風景とともに、今に生き続けるくらしの知恵に新しい光をあてて、遊びながら楽しく学ぶことができるよう意図して造られた。

村では稲刈り等の農体験やボランティアによる民話語り、昔あそびなどの体験ができ、その体験風景と人との交流そのものが「なつかしい農村風景」としての要素にもなっている。



位置図

事業段階区分			立地区分				
構想・計画	設計・施工	維持管理	都心部	市街地 (商業・業務)	市街地 (住居系)	郊 外	その他

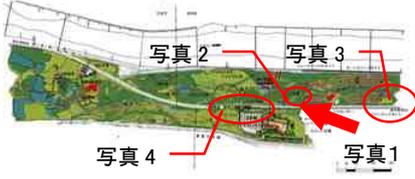
■事例概要カルテ 41

部 門	都市公園事業		
名 称	日光だいや川公園	所 在 地	栃木県日光市、今市市
事 業 者	栃木県	規 模	約 61.9ha

事業概要	立地に応じた景観形成：周辺の自然景観との連続性の確保
事業手法	都市公園事業（広域公園）
事業期間	平成5年度～平成16年度
規制・誘導方法	—
配慮・工夫事項	<ul style="list-style-type: none"> ・日光連山の眺望を活かした景観づくり ・地形や樹林地を活かした空間づくり ・木材を活用して温もりや安らぎを演出



日光連山の美しい山並み・裾野の広がり芝生広場の連続性(写真1)



写真撮影位置



緑の相談所(写真2)



オートキャンプ場(写真3)



フィールドアスレチック(写真4)

本公園は「日光の自然と悠久の歴史・文化へのいざない」を基本テーマに、日光地方生活圏における広域レクリエーション活動の拠点として位置づけられた広域公園である。豊かな自然を生かし、水と緑があふれ、ゆったりとくつろぐことのできる空間を提供できるよう計画し整備された。

園内には、トレーラーハウスを備えた本格的なオートキャンプ場をはじめ、この地域に生息する生物の姿や生態をイメージしたフィールドアスレチックや広大な芝生広場等が整備されている。

また、日光連山の美しい山並みの景観を取り込むとともに、裾野の広がり芝生広場の連続感や、裾野の視界を遮らない植栽の配置等にも工夫を凝らしている。



位置図

事業段階区分			立地区分				
構想・計画	設計・施工	維持管理	都心部	市街地 (商業・業務)	市街地 (住居系)	郊 外	その他

■事例概要カルテ 42

部 門	都市公園事業		
名 称	石川島公園	所 在 地	東京都中央区
事 業 者	中央区	規 模	約 3.3ha

事業概要	立地に応じた景観形成:都市の良好な水辺景観の確保
事業手法	都市公園事業(近隣公園)
事業期間	平成10年度 ~ 平成11年度
規制・誘導方法	—
配慮・工夫事項	・東京都が整備した緩傾斜堤防の上部を親水公園として整備するとともに、後背地の大規模開発により生み出された公開空地との連続性を持たせることにより、隅田川の水辺を活かし、背後の高層ビル群と調和のとれた景観を創出



自然石を敷きつめ、直接水とふれあえる水辺空間、法面の芝生や桜堤のプロムナードを整備



日仏の友好と発展を願い整備されたパブリック広場。モニュメント作成には中央区内に学ぶ日本とフランスの児童250人が参加



相生橋より望む石川島公園。突端部(隅田川派川との分岐点。写真右側)には棧橋をイメージしたデッキが整備され、船の係留用のボラードをベンチとして設置



位置図

【表彰等】

- ・第16回都市公園コンクール 施工部門(造園修景) 建設大臣賞受賞

大川端リバー・シティ事業と一体的に整備を行ってきた石川島公園が平成12年3月をもって完成した。これにより、佃公園・石川島公園をあわせ、隅田川沿いの約4.5haの水辺空間整備が完了した。

事業段階区分			立地区区分				
構想・計画	設計・施工	維持管理	都心部	市街地 (商業・業務)	市街地 (住居系)	郊外	その他

■事例概要カルテ 43

部 門	都市公園事業		
名 称	日比谷公園	所 在 地	東京都千代田区
事 業 者	東京都	規 模	約 16.2ha

事業概要	都市全体の景観の向上: 都市のシンボル、街並み景観を誘導
事業手法	都市公園事業(総合公園)
事業期間	・昭和 57 年度 ~ 昭和 61 年度(緑化道路整備) ・平成 15 年度 ~ (民間資金を導入した公園活性化、施設設置、改修)
規制・誘導方法	—
配慮・工夫事項	・日本で最初の近代洋風公園の雰囲気を保つため、建設当初(明治 26 年)のコンセプトを踏まえた改修・管理を実施 ・街並みとの連続性を確保し、より広がりのある質の高い空間としていくため、公園の外周部は「緑化道路」として歩道と一体的に整備・管理を実施



日比谷公園から皇居外苑を望む風格ある都市景観(写真1)



東京都の有形文化財である旧公園資料館は開園当初の公園管理所。平成 18 年度から民間資金を導入し老朽化が進む建物を改修、積極的に活用する予定(写真2)



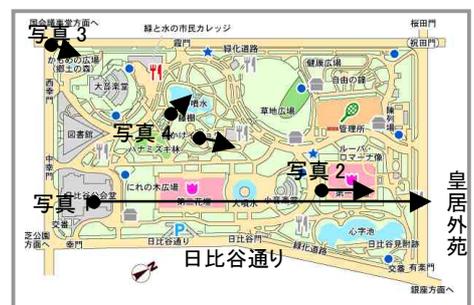
公園の外周部は「緑化道路」として歩道と一体的に整備・管理(写真3)



開園当初から来園者に人気、首かけイチヨウ(左)と鶴の噴水(右)(写真4)

日比谷公園は、幕末まで松平肥前守などの屋敷地であったが、明治時代に陸軍練兵場となり、その後「都市の公園」として計画、設計、造成された、日本初の「洋風近代式公園」として誕生した。本公園は、平成 15 年に開園 100 年が経過しているが、基本的なデザインは当初と大きく変わっていない。公園の大木群は 100 年の歴史を感じさせ、まさに都市のシンボルとしてその存在はゆるぎないものとなっている。

高層ビルの人工的要素と公園の木々による自然的要素との対比が都心ならではの景観を形成している。



写真撮影位置

事業段階区分			立地区分				
構想・計画	設計・施工	維持管理	都心部	市街地 (商業・業務)	市街地 (住居系)	郊外	その他